

授業科目	政治・経済 A		担当教員	小林 功典	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	政治・経済は単純な暗記よりも、理解を伴った記憶の方が、知識が定着します。政治・経済の授業では、単に語句を暗記するのではなく、「仕組み」や「問題点」を理解することを目的とします。				
到達目標	政治・経済は、社会科学系の中では、最も確実な得点源となります。授業目的に基づき、応用力を身につけ、得意科目とすることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	”絶対”合格シリーズ 社会科学 テキスト編 ”絶対”合格シリーズ 社会科学 問題集編 ”絶対”合格シリーズ 社会科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義が速いペースで進むので、予習と復習を忘れないで下さい。また、問題演習時、解けなかった問題は、疑問点を解決して、確実に解けるようにして下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	統治機構 三権分立	国会と内閣の関係、国会・内閣と裁判所の関係、国民と国会・内閣・裁判所の関係（国民による権力のコントロール）		
	2	統治機構 国会	国会、二院制、国会の種類、国会の権限		
	3	統治機構 国会	各議員の権限、国会議員の特権、衆議院の優越		
	4	統治機構 内閣	内閣の構成、内閣の地位、内閣の権限、内閣総理大臣の権限、閣議、内閣総辞職、行政委員会		
	5	統治機構 裁判所	裁判所の役割、裁判所の組織、裁判の種類、司法権の独立、裁判の公開、違憲立法審査権、裁判員制度		
	6	日本国憲法の基本的性格	大日本帝国憲法、日本国憲法、日本国憲法の三大原則		
	7	地方自治	地方自治の本旨、地方公共団体の独立、地方自治の組織、直接請求権、地方自治の問題点		
	8	選挙制度	民主選挙の原則、わが国における選挙権の拡大、さまざまな選挙制度、各選挙制度の特色、日本における現在の選挙制度、公職選挙法 など		
	9	民主主義の発展	社会契約説、人権保障の歴史、国際的人権保障へ、法の支配、歴史的にみる人権の内容の拡大		
	10	各国の政治制度	イギリスの政治制度の特徴、アメリカの政治制度の特徴、フランス・ドイツ・ロシアの政治制度、社会主義国の政治制度		
	11	基本的人権の尊重①	精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権		
	12	基本的人権の尊重②	社会権、参政権、国務請求権		
	13	基本的人権の尊重③	外国人の人権、日本国憲法 13 条（個人の尊厳及び		

			幸福請求権)、法の下での平等・平等権
14	国際政治と日本		国際法、政界平和を守る為の方策、国際連盟と国際連合の比較、国際連合の機構、国際連合の専門機関、戦後国際政治、日本を取り巻く課題
15	政治分野まとめ		問題演習
16	経済のしくみ①		市場、価格、価格機構グラフ作成、需要曲線と供給曲線のシフトする主な要因
17	経済のしくみ②		価格機構と限界
18	企業のしくみ		会社の種類、株式会社のしくみ
19	景気と物価		景気変動、物価－インフレーション、物価－デフレ
20	金融と日本銀行の金融政策		金融、信用創造、金融と市場の資金量、金融政策、三大金融政策
21	財政政策		財政、財政の役割、財政投融资
22	為替レートと貿易		自由貿易と保護貿易、為替レートと貿易、国際収支、日銀の市場介入
23	国際政治との関わり		第二次世界大戦後の国際経済体制、スミソニアン体制～キングストン体制、日米の貿易摩擦、地域経済機構、新興経済地域、国際経済会議
24	国民所得と経済成長		ストックとフロー、国民経済計算、経済成長
25	現代日本経済の構造と課題		戦後の経済改革、戦後復興期、高度成長期、オイルショック、バブル経済、現代日本経済の課題、産業構造の変化
26	経済学史		資本主義経済の発展
27	経済分野まとめ		問題演習
28	社会保障・情報化		日本の社会保障制度、社会保障の歴史、少子・高齢化問題
29	労働事情・環境問題・農業問題		労働者の権利、労働情勢、地球環境問題、わが国の環境問題、消費者問題
30	総まとめ		問題演習

授業科目	政治・経済 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	模擬演習 B		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数
授業目的	集中的に過去問題演習（一般教養分野：国語・文章理解、人文科学、社会科学）と、模擬試験（過去試験問題）を実施し得点力の向上を目指します。				
到達目標	模擬試験正答率 50%以上。				
テキスト・参考図書等	模擬試験（実務教育出版） / SPI 模擬試験（麻生） / TAC 模擬試験 / 過去本試験問題				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（模擬試験結果）、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に判断します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	模擬試験は、必ずやり直しを行ってください。得点力を上げるためには必要な学習方法です。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験①（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。		
	2	模擬試験①（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	3	教養科目①	国語・文章理解①		
	4	教養科目②	人文科学①		
	5	模擬試験②（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。		
	6	模擬試験②（採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	7	教養科目③	国語・文章理解②		
	8	教養科目④	人文科学②		
	9	教養科目⑤	社会科学①		
	10	模擬試験③（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。		
	11	模擬試験③（採点・解説）	全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
	12	教養科目⑥	国語・文章理解③		
	13	教養科目⑦	人文科学③		

	14	模擬試験④（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
	15	模擬試験④（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	16	教養科目⑧	国語・文章理解④
	17	教養科目⑨	人文科学④
	18	教養科目⑩	社会科学②
	19	模擬試験⑤（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
	20	模擬試験⑤（採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	21	教養科目⑪	国語・文章理解⑤
	22	教養科目⑫	人文科学⑤
	23	教養科目⑬	社会科学③
	24	模擬試験⑥（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
	25	模擬試験⑥（採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	26	教養科目⑭	国語・文章理解⑥
	27	教養科目⑮	人文科学⑥
	28	教養科目⑯	社会科学④
	29	模擬試験⑦（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
	30	模擬試験⑦（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	英語 A	担当教員	宮田 光		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公務員試験に対応できる実践的な長文読解力、構文把握力、及び語彙力を習得し、根拠を持って正答を導き出せるようになる。				
到達目標	1. 公務員試験問題の選択肢と本文の整合性を確認し、正答の根拠となる英文の意味を理解できるようになる。 2. 公部員試験問題に頻出の語法や構文、そして英文独自の段落構成を理解し、知識と論理で正答にたどり着けるようになる。				
テキスト・参考図書等	”絶対”合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	毎回の授業で単語テスト（50 問）を実施する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	長文読解法①	授業内容の説明 長文読解法①テキスト No.1～3		
	2	長文読解法②	長文読解法②テキスト No.4～6		
	3	長文読解法③	長文読解法③テキスト No.7～9		
	4	長文読解法④	長文読解法④テキスト No.10～12		
	5	重要英文法 関係代名詞・関係副詞・関係代名詞継続用法	PowerPoint 文法解説 演習問題実施		
	6	重要英文法 現在完了・過去完了	PowerPoint 文法解説 演習問題実施		
	7	重要英文法 仮定法過去・仮定法過去完了	PowerPoint 文法解説 演習問題実施		
	8	重要英文法 知覚動詞・使役動詞	PowerPoint 文法解説 演習問題実施		
	9	長文読解法⑤	長文読解法⑤テキスト No.13～15		
	10	長文読解法⑥	長文読解法⑥テキスト No.18～20		
	11	長文読解法⑦	長文読解法⑦テキスト No.21～23		
	12	長文読解法⑧	長文読解法⑧テキスト No.24～26		
	13	一次試験直前模擬試験①	模擬試験 問題解説		
	14	一次試験直前模擬試験②	模擬試験 問題解説		
	15	一次試験直前模擬試験③	模擬試験 問題解説		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	2 次試験対策 A		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	公務員面接について理解し、必要な分析（理解）と情報収集の方法について学びます。 面接試験に必要な、基本動作訓練及び基本的質問事項への返答準備を行います。				
到達目標	1. 公務員面接（人物）試験の概要を理解する 2. 職種研究、自己分析を開始し、志望動機、自己 PR の原稿が作成できる 3. 公務員面接においての基本的質問事項（上記 2 以外）について原稿が作成できる 4. 入退室等の面接基本動作の習得				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	提出物、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	40			
履修上の留意事項	1. 質問返答の答え（コメント、返事）は、学生各人の中にあるため、それを自らが引き出す必要があります。柔軟な思考と、真剣な取り組みが必要です 2. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組む、作成提出してください				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	面接試験の概要 自己分析	面接試験の重要ポイント、準備方法 自己分析シートの作成		
	2	自己分析	自己 PR 文（1 つ目）の作成、提出		
	3	自己分析	自己 PR（2 つ目）の作成、提出		
	4	自己分析	自己 PR 文（メイン）の修正、提出 自己 PR 文の発表		
	5	自己分析	自己 PR 文の発表		
	6	職種分析	志望動機の作り方について 職種研究（北海道警察編）		
	7	職種分析	志望動機作成（北海道警察編）、提出		
	8	面接基本動作	基本動作訓練（入退室、挨拶、お辞儀） 全体練習		
	9	面接基本動作	全体練習		
	10	面接対策	関心ある出来事について 2 つ挙げる その理由を論理的に考え、提出		
	11	面接対策	街頭募金ボランティアの感想文作成、提出		
	12	面接対策	過去の質問項目に対する回答作成		
	13	面接対策	過去の質問項目に対する回答作成、提出		
	14	面接対策	面接カード作成		

	15	面接対策	面接カード作成、提出
--	----	------	------------

授業科目	2 次試験対策 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	数学 A		担当教員	森 淳紀		
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	国家公務員、地方公務員、警察官、消防官等の公務員採用試験に対応できる知識と計算能力の向上を目的とする。					
到達目標	公務員試験で試される分野の中で、将来、公務員として必要とされる数学の基礎学力を養成する。計算能力を高め、図形に関する知識を運用し、方程式、関数などの周辺分野に取り組み、対処できる力を養成する。					
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編 試験対策演習プリント					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	20				
	提出物	0				
	その他	20				
履修上の留意事項	習得しなければならない重要な分野は限られている。積極的に取り組む姿勢が苦手意識を克服する第一歩である。そして、公務員になるという想いが原動力である。まずは目の前にある問題を速く正確に解くことができるように真剣に取り組もう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス、基礎学力確認、式の計算（展開、因数分解、平方根）①	基礎学力試験及び式の計算の復習を行い、定着状況を確認する。			
	2	式の計算（展開、因数分解、平方根）②	基礎学力試験をもとに、計算の展開・因数分解の計算の工夫を習得する。			
	3	式の計算（展開、因数分解、平方根）③	根号を含む式の計算の工夫を習得する。			
	4	1 次関数	1 次関数の式及びグラフの基礎的内容について習得する。			
	5	2 次方程式・2 次不等式①	2 次方程式・2 次不等式の解法について習得する。			
	6	2 次方程式・2 次不等式②	文章題から 2 次方程式・2 次不等式を立式し、解く方法を習得する。			
	7	2 次関数①	2 次関数の頂点の求め方、平行移動の方法を習得する。			
	8	2 次関数②	2 次関数の最大値・最小値の求め方を習得する。			
	9	中間演習	上記単元についてのまとめ演習を行う。			
	10	2 次関数③	2 次関数と 2 次方程式との関係を理解する。			
	11	2 次関数④	2 次関数の条件を 2 次方程式・不等式から求める方法を習得する。			
	12	円の方程式、不等式の表す領域	円の方程式、中心や半径の求め方を習得する。円や直線の不等式が表す領域を求め方法を習得する。			
	13	三角比とその活用①	三角比の定義、計算方法を習得する。			

	14	三角比とその活用②	正弦定理・余弦定理など図形への応用を習得する。
	15	総合演習	上記単元についてのまとめ演習を行う。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	数的知能 A		担当教員	中畑 賢一	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45 回	時間数
授業目的	公務員試験において、数的知能（数的推理、資料解釈）は得点源とすべき重要な科目です。まずは単元毎の基本解法をしっかりと習得してください。本試験に対応した様々な問題について、標準問題から応用問題まで学習していきます。				
到達目標	1. 公務員試験レベルの問題に対応するため、各単元の基本解法の習得を目的とします。 2. 模擬試験における数的分野正答率 50%以上を目指します。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 問題集編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	・単元毎の導入動画を授業前日までに必ず視聴し、それを理解した上で授業に臨んでください。 ・毎授業の始めに、小テスト又は適性試験を実施します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	授業説明 濃度	授業の進め方、評価方法 混合の基礎、3 種類の混合		
	2	濃度	水の追加、食塩の追加、蒸発		
	3	濃度	2 回に分けての計算		
	4	年齢	年齢問題の基本		
	5	年齢	年齢問題の演習		
	6	売買損益	割引・割増の基本問題、原価・定価・売価の関係		
	7	売買損益	個数を考慮した売買		
	8	資料解釈	導入（例題の解説）、重要ポイント 1～5		
	9	資料解釈	実数と構成比		
	10	資料解釈	指数と構成比		
	11	平均	平均と合計、複数グループの平均		
	12	平均 / 一次方程式	複数グループの平均（人数比） / 【=】の関係		
	13	一次方程式	相当算		
	14	三角形と多角形	直線と角、外角、多角形、角の二等分線の定理		
	15	三角形と多角形	平行線と線分の比、合同・相似、直角三角形、三平方の定理		
	16	三角形と多角形	三平方の定理の応用、三角形の重心		

	17	資料解釈	増減率
	18	連立方程式	計算の工夫、変動前と変動後、変動前と変動後 (同数増加)
	19	連立方程式 / 速さの基本	過不足算 / 速さの公式と単位換算
	20	旅人算	相対速度の説明、出会い算、追いかかけ算
	21	旅人算	出会い算、追いかかけ算応用
	22	旅人算	周回問題
	23	通過算	固定されたものの通過、電車同士の通過
	24	通過算	動くものの(電車以外)の通過
	25	円	円と直線、円周角、円と接線、接弦定理
	26	円	方べきの定理、円周と弧
	27	流水算	流水算の基本、往復の時差
	28	流水算	具体的な値が少ない流水算
	29	時計算	時計算の基本、指定された時刻、長針短針の角度、線対称問題
	30	その他の速さ問題	平均の速さ、区間別の異なる速さ、忘れ物による往復
	31	不等式	大小関係、過不足算の不等式
	32	不等式	勝敗ライン
	33	仕事算	仕事算の基本、仕事の交替
	34	仕事算	3人以上の仕事算、のべ算
	35	仕事算	2通りで表された仕事量
	36	ニュートン算	ニュートン算の基本、不明な情報が2つの場合
	37	ニュートン算	不明な情報が3つの場合
	38	面積(三角形)	三角形の面積比、相似な三角形の面積比
	39	面積(三角形)	相似な三角形の面積比
	40	場合の数(数え上げと順列)	サイコロの目、整数整理、順列(並べ替え)、順列(隣り合う、連続する)
	41	場合の数(数え上げと順列)	順列(同じものを含む順列)、円順列、数珠順列
	42	場合の数(数え上げと順列)	組合せ、余事象
	43	場合の数(数え上げと順列)	仕切り法
	44	まとめ	総合演習
	45	まとめ	総合演習

授業科目	数の知能 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	地理 A		担当教員	和歌山 浩司	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	世界地理や日本地理の基本的な力を養成し、過去問題演習を中心とした実践問題で、理解度と応用力を高めます。				
到達目標	模擬試験での正答率 50%以上を目指す。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	地理は、「理解」と「できる」の距離が近いので、高い正答率が可能になります。好き嫌いではなく、得点科目として学習してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	地理学習のポイント、大陸と州	板書を使った説明と問題演習		
	2	気候	板書を使った説明と問題演習		
	3	地形	板書を使った説明と問題演習		
	4	土壌	板書を使った説明と問題演習		
	5	平野	板書を使った説明と問題演習		
	6	世界の農牧業	板書を使った説明と問題演習		
	7	アジアについて	板書を使った説明と問題演習		
	8	ヨーロッパについて	板書を使った説明と問題演習		
	9	北アメリカ大陸について	板書を使った説明と問題演習		
	10	南アメリカ大陸について	板書を使った説明と問題演習		
	11	アフリカ・オセアニアについて	板書を使った説明と問題演習		
	12	工業・漁業・林業	板書を使った説明と問題演習		
	13	貿易	板書を使った説明と問題演習		
	14	人口	板書を使った説明と問題演習		
	15	時差	板書を使った説明と問題演習		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	PowerPoint	担当教員	小形 龍志		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	1. PowerPoint の基本操作・機能を習得し、与えられたテーマに沿った分かりやすい資料作成ができることを目的とします。 2. 魅力あるプレゼン（発表）ができるよう実践を行います。				
到達目標	1. テーマに沿ったスライド作成ができ、アニメーション機能を効果的に活用できる。 2. プレゼン力の向上。				
テキスト・参考図書等	プリント教材使用				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	提出物（課題提出、発表評価）、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	40			
履修上の留意事項	限られた時間の中で、課題作成があるため、計画的に作業を進めてください。プレゼンの評価は、評価シートにて行います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	PowerPoint の基本操作	1. PowerPoint ソフトの説明 2. 例題の作成①（デザイン、テキストボックス、フォント変更、画面切り替え）		
	2	PowerPoint の基本操作	例題の作成②（図形、写真取り込み、アニメーション設定、トリミング）		
	3	プレゼン資料の作成	課題 1 制作		
	4	プレゼン資料の作成	課題 1 制作		
	5	プレゼン資料の作成	課題 1 制作、提出		
	6	作成したプレゼン資料の発表	課題 1 発表		
	7	プレゼン資料の作成	課題 2 制作		
	8	プレゼン資料の作成	課題 2 制作		
	9	プレゼン資料の作成	課題 2 制作、提出		
	10	作成したプレゼン資料の発表	課題 2 発表		
	11	プレゼン資料の作成	課題 3 制作		
	12	プレゼン資料の作成	課題 3 制作		
	13	プレゼン資料の作成	課題 3 制作		
	14	作成したプレゼン資料の発表	課題 3 発表		
	15	作成したプレゼン資料の発表	課題 3 発表		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	税法		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数 0 時間
授業目的	所得税は、納税者が法律に決められたルールに従って、申告・納税を自主的に行う申告納税制度を基本としています。この授業では、社会人の知識として最低限必要な、所得税法の基本知識と課税方法について学習していきます。				
到達目標	税金の意義・目的を理解し、各所得について基本的な計算方法を習得する。 全国経理教育協会主催の所得税法検定 3 級合格。				
テキスト・参考図書等	所得税法ノート（プリント教材） 所得税法 3 級過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	試験、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。 ※試験は所得税法検定とする。ただし、本校の採点基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	計算問題があるため電卓が必要になります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	税金の制度	検定試験実施要項説明、税金の意義、税金の分類		
	2	税金の制度	税金の用語、源泉徴収制度、確定申告制度		
	3	所得税の概要	所得の意義と計算期間、納税義務者、非課税所得		
	4	所得税の概要	10 種類の所得、各種所得の計算手法、所得税計算のしくみ		
	5	各種所得の計算 1	利子所得		
	6	各種所得の計算 2	配当所得		
	7	各種所得の計算 3	不動産所得		
	8	各種所得の計算 4	不動産所得、事業所得		
	9	各種所得の計算 5	事業所得		
	10	各種所得の計算 6	給与所得、退職所得		
	11	各種所得の計算 7	譲渡所得、山林所得		
	12	各種所得の計算 8	一時所得、雑所得		
	13	所得分類、所得計算	所得の分類演習、各種所得の計算演習		
	14	所得控除	雑損控除、医療費控除、社会保険料控除、小規模企業共済等掛金控除		
	15	所得控除	生命保険料控除、地震保険料控除、障害者控除、配偶者控除、扶養控除、基礎控除、所得控除額の計算		
	16	所得控除演習	所得控除額の計算演習		

	17	所得税額、税額控除	所得税額の計算、住宅借入金等特別控除、配当控除等
	18	検定試験対策 1	過去試験問題演習
	19	検定試験対策 2	過去試験問題演習
	20	検定試験対策 3	過去試験問題演習
	21	検定試験対策 4	過去試験問題演習
	22	検定試験対策 5	過去試験問題演習
	23	検定試験対策 6	過去試験問題演習

授業科目	税法	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	判断知能 A	担当教員	小形 龍志		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各單元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的とする。				
到達目標	各単元の基本解法を習得し、テキストの例題・演習問題を確実に解けるようにする。模擬試験における判断知能分野正答率 70%以上を目標とする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォン（電源を切る、または、マナーモードにする）の操作などを行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。 3. 単元毎の導入動画を授業前日までに必ず視聴し、それを理解した上で授業に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	論理 1	命題、逆、裏、対偶の関係および三段論法について理解する。		
	2	論理 2	「かつ」「または」の分解・合成について理解する。		
	3	論理 3	命題とベン図について理解する。		
	4	論理 4	問題演習		
	5	対応関係 1	対応表（2 つの事柄）について理解する。		
	6	対応関係 2	対応表（3 つの事柄）について理解する。		
	7	対応関係 3	場合分けで判断する方法を理解する。また、間接的な表現についても理解する。		
	8	対応関係 4	その他の対応表の問題について理解する。		
	9	対応関係 5	組み合わせについて理解する。		
	10	展開図 1	正六面体（立方体）の展開図について理解する。		
	11	展開図 2	正八面体の展開図について理解する。		
	12	展開図 3	五面図の描き方、サイコロの問題の解き方について理解する。		

	13	展開図 4	問題演習
	14	順序関係 1	数直線を描いて判断する方法を理解する。また、数直線の平均についても理解する。
	15	順序関係 2	ブロック化で判断する方法を理解する。
	16	順序関係 3	順位の比較、途中経過から判断する方法を理解する。
	17	順序関係 4	樹形図を描いて判断する方法を理解する。また、時計のズレについても理解する。
	18	位置・方位 1	配置図から判断する方法を理解する。
	19	位置・方位 2	座席から判断する方法を理解する。
	20	位置・方位 3	問題演習
	21	位置・方位 4	方位の表し方と角度について理解する。
	22	平面図形 1	図形の数え上げについて理解する。
	23	平面図形 2	断片を組み合わせて図形を作る方法を理解する。
	24	平面図形 3	問題演習
	25	数量推理 1	鳩ノ巣原理、○×問題について理解する。
	26	数量推理 2	方程式と数づくりの問題について理解する。
	27	数量推理 3	表を用いて判断する方法を理解する。
	28	数量推理 4	魔法陣を用いて判断する方法を理解する。
	29	軌跡 1	直線上に図形を転がす場合の軌跡について理解する。
	30	軌跡 2	問題演習
	31	軌跡 3	円周上に図形を転がした場合の軌跡について理解する。
	32	軌跡 4	その他の図形の軌跡について理解する。
	33	集合・人数 1	ベン図の解き方について理解する。
	34	集合・人数 2	問題演習
	35	集合・人数 3	キャロル表から判断する方法を理解する。
	36	集合・人数 4	最大・最小の表し方について理解する。
	37	折り紙 1	逆順に書き込んで解く方法について理解する。
	38	折り紙 2	選択肢に書き込んで解く方法について理解する
	39	うそつき 1	グループ分けでうそつきを導く方法を理解する。
	40	うそつき 2	半分が本当、半分がうその問題の解き方を理解する。
	41	うそつき 3	番町式での解き方を理解する。

	42	試合・勝敗 1	リーグ戦で図を描いて判断する方法を理解する。
	43	試合・勝敗 2	リーグ戦の特殊な場合について判断する方法を理解する。
	44	試合・勝敗 3	トーナメント戦のトーナメント表から判断する方法を理解する。
	45	試合・勝敗 4	問題演習

授業科目	判断知能 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	キャリアデザイン	担当教員	小形 龍志		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	公務員採用試験及び民間企業採用試験に必要な対策を行います。また、社会人マナーを学び、適切な判断や行動ができるための知識向上を目指します。				
到達目標	1. 就職関係書類を記入（完成）できること 2. 社会人マナーの知識習得				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（社会人マナー等）、提出物、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	20			
	その他	40			
履修上の留意事項	必要に応じて個別面談を複数回実施します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	書類作成	履歴書作成の準備・内容項目確認・下書き		
	2	書類作成	履歴書本書きと提出		
	3	社会人マナー	社会人常識マナー検定試験問題解説解答①		
	4	社会人マナー	社会人常識マナー検定試験問題解説解答②		
	5	社会人マナー	社会人常識マナー検定試験問題解説解答③		
	6	社会人マナー	社会人常識マナー検定試験問題解説解答④		
	7	社会人マナー	インターネット利用に関する基礎知識 問題演習①		
	8	社会人マナー	インターネット利用に関する基礎知識 問題演習②		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	数的知能 B		担当教員	中畑 賢一	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数
					60 時間
授業目的	第 2 章「数の性質と計算」を中心に論理分野及び図形分野を学習します。また、本試験レベルを意識できる過去問題等の演習も合わせて行っていきます。				
到達目標	模擬試験における数的分野正答率 60%以上を目指します。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 問題集編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	毎授業の始めに、小テスト又は適性試験を実施します。速く解くことを意識し、解答スピードを上げてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	確率（順列と組合せ）	数え上げ、順列、組合せ		
	2	確率（排反・独立）	排反事象と独立試行、じゃんけん、余事象		
	3	確率（反復試行、条件付確率、期待値）	反復試行		
	4	確率（反復試行、条件付確率、期待値）	条件付確率、期待値		
	5	面積（円・扇形）	円と扇形の実面積、面積の加減（工夫計算）		
	6	面積（円と扇形）	面積の加減（工夫計算）		
	7	面積（その他）	さまざまな図形の実面積		
	8	比と割合	配分（按分）計算、連比、比の計算（比例式）		
	9	比と割合	比と割合で表された情報の整理		
	10	記数法	10 進法から n 進法への変換、n 進法から 10 進法への変換、n 進法から n 進法への変換、四則演算		
	11	約数・倍数	最小公倍数、最大公約数		
	12	約数・倍数	割る数と余り、約数の個数		
	13	魔方陣	3×3=9 マス、4×4=16 マス		
	14	覆面算・虫食い算	加減の筆算、掛け算の筆算、割り算の筆算		
	15	立体（体積・表面積・展開図）	さまざまな図形の体積・表面積、相似な図形の体積比		
	16	立体（体積・表面積・展開図）	展開図と最短距離		

	17	立体（切断・回転体・その他）	立体の切断、回転体
	18	総合演習	過去問題演習
	19	総合演習	過去問題演習
	20	総合演習	過去問題演習
	21	総合演習	過去問題演習
	22	総合演習	過去問題演習
	23	総合演習	過去問題演習
	24	総合演習	過去問題演習
	25	総合演習	過去問題演習
	26	総合演習	過去問題演習
	27	総合演習	過去問題演習
	28	総合演習	過去問題演習
	29	総合演習	過去問題演習
	30	総合演習	過去問題演習

授業科目	数の知能 B	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	Excel		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 0 時間
授業目的	Excel の基本的な操作であるデータ入力や関数の挿入、グラフ作成などができるようになることを目的とします。				
到達目標	情報処理技能検定 表計算準 2 級以上の合格を目標とします。				
テキスト・参考図書等	情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。 ※試験は表計算検定とする。ただし、本校の採点基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	目標の内容だけに限定せず、応用的な内容も一部取り入れて展開することがあります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	Excel の基礎知識	Excel の起動と終了、データの入力		
	2	データ入力の基本を覚える	3 級模擬問題（消去、挿入削除、移動、コピー、データの入力）		
	3	データ入力と関数	3 級模擬問題（MAX、MIN、AVERAGE 関数）		
	4	データ入力と関数	準 2 級模擬問題（ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN 関数）		
	5	データ入力と関数	準 2 級模擬問題（RANK 関数、並び替え）		
	6	データ入力と関数	準 2 級模擬問題 表検索（VLOOKUP 関数）		
	7	データ入力と関数	準 2 級模擬問題 IF 関数（AND、OR）		
	8	データ入力と関数	準 2 級模擬問題 セル証明、グラフ作成		
	9	エクセル関数の確認	小テスト（準 2 級）		
	10	検定試験模擬問題解答作成	2 級模擬問題（データ入力、計算式入力、絶対参照、VLOOKUP・RANK・AND・OR 関数、セル証明、グラフ作成）		
	11	検定試験模擬問題解答作成	2 級模擬問題（データ入力、計算式入力、絶対参照、VLOOKUP・RANK・AND・OR 関数、セル証明、グラフ作成）		
	12	検定試験模擬問題解答作成	2 級模擬問題（データ入力、計算式入力、絶対参照、VLOOKUP・RANK・AND・OR 関数、セル証明、グラフ作成）		
	13	検定試験模擬問題解答作成	検定対策（1 回実施）小テスト		
	14	検定試験模擬問題解答作成	検定対策（2 回実施）		

	15	検定試験模擬問題解答 作成	検定対策（1回実施）小テスト
--	----	------------------	----------------

授業科目	Excel	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	世界史 A	担当教員	下山田 幸一		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	短期で世界史の理解と知識の定着を図る。分野別の過去問演習を中心に展開し得点力アップを目指す				
到達目標	模擬試験での正答率 40%以上を目指す				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	四大文明～古代ギリシア世界	メソポタミア等の古代文明の相違やギリシア民主化の過程の流れを確認する		
	2	古代ローマ世界～中世ヨーロッパ②	古代ローマ世界と、中世ヨーロッパにおけるキリスト教との関わりから叙任権闘争への流れを確認する		
	3	中世ヨーロッパ②～近世ヨーロッパ①	十字軍からスペイン絶対王政確立の流れを確認する		
	4	近世ヨーロッパ②～市民革命①	宗教改革からピューリタン革命までの流れを確認する		
	5	市民革命①～③	名誉革命からフランス革命までの流れを確認する		
	6	小テスト・ナポレオン時代	市民革命までの小テストを実施し、その後ナポレオン時代の確認をする		
	7	産業革命～19～20C のヨーロッパ	産業革命から 19・20 世紀のヨーロッパへの流れを確認する		
	8	帝国主義から世界大戦へ～戦間期の欧米諸国	帝国主義の隆盛から戦間期への流れを確認する		
	9	戦間期の欧米諸国～第二次世界大戦	世界恐慌から第二次世界大戦までの流れを確認する		
	10	世界史用語まとめ①	古代から近世までの範囲を中心に用語の確認をする		
	11	世界史用語まとめ②	近代から現代までの範囲を中心に用語の確認をする		

	12	中国史①～③	殷代から南北朝時代までを確認する
	13	中国史③～⑥	隋代から元代までを確認する
	14	中国史⑥～⑧	明代からアヘン戦争までを確認する
	15	中国史⑧～⑩	太平天国の乱から五・四運動までを確認する

授業科目	世界史 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	模擬演習 A		担当教員	中畑 賢一	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数
授業目的	公務員本試験を想定した模擬試験 15 回(30 コマ分)の実施を行います。また、正答率の低い知能問題を中心に解説を行い、知能以外の問題については、その場で解説にて見直し学習を行います。				
到達目標	1. 自己得点能力を認識し、解答順や時間配分等の受験スタイルを構築して得点効率を高める。 2. 模擬試験の分野正答率（一般教養分野 40%、一般知能分野 60%）以上。				
テキスト・参考図書等	模擬試験（実務教育出版）／ 全国統一模擬試験（麻生）／ SPI 模擬試験（麻生）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（模擬試験結果）、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に判断します。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の留意事項	受験した模擬試験は、不正解問題も含め必ずやり直しを行ってください。得点能力の向上には必要な勉強方法です。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験①（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。		
	2	模擬試験①（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
	3	模擬試験②（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。		
	4	模擬試験②（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
	5	模擬試験③（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。		
	6	模擬試験③（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
	7	模擬試験④（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。		
	8	模擬試験④（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
	9	模擬試験⑤（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。		
	10	模擬試験⑤（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。		
11	模擬試験⑥（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。			

	12	模擬試験⑥（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	13	模擬試験⑦（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	14	模擬試験⑦（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	15	模擬試験⑧（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	16	模擬試験⑧（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	17	模擬試験⑨（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	18	模擬試験⑨（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	19	模擬試験⑩（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	20	模擬試験⑩（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	21	模擬試験⑪（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	22	模擬試験⑪（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	23	模擬試験⑫（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	24	模擬試験⑫（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	25	模擬試験⑬（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	26	模擬試験⑬（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	27	模擬試験⑭（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	28	模擬試験⑭（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	29	模擬試験⑮（教養試験）	2 コマ連続の授業となる。始めに教養試験（各試験の設定時間）を実施する。
	30	模擬試験⑮（適性試験、採点・解説）	教養試験終了後、適性試験を 15 分間行う。全試験終了後、問題の解答と解説を行う。

授業科目	模擬演習 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	簿記		担当教員	中畑 賢一	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	38 回	時間数
授業目的	簿記会計の基本的な構造を学び、複式簿記による仕訳方法や財務諸表の作成を習得し、簿記会計の一巡の流れが把握できる力を身に付けます。				
到達目標	1. 簿記会計の基本知識の習得。 2. 全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験 3 級合格。				
テキスト・参考図書等	全経簿記 3 級公式テキスト、問題集／簿記能力検定試験 過去問題集／補助プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	試験、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。 ※試験は、簿記能力検定とする。ただし、採点方法は本校基準による。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	簿記会計の学習は、基礎からの積み上げと、単元（項目）毎の反復演習が必要です。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	簿記の基本構造	簿記の目的、資産・負債・純資産、期首貸借対照表		
	2	簿記の基本構造	収益・費用、損益計算書		
	3	簿記の基本構造	期末貸借対照表、演習問題		
	4	仕訳と転記	増減表、5 要素のホームポジション、勘定記入（直接記入）		
	5	仕訳と転記	勘定記入（直接記入）、仕訳		
	6	仕訳と転記	仕訳、転記		
	7	仕訳と転記	仕訳帳、総勘定元帳		
	8	現金と預金	現金、現金出納帳		
	9	現金と預金	当座預金、当座預金出納帳、小口現金		
	10	現金と預金 / 売買損益	小口現金出納帳、返品と諸掛処理		
	11	売買損益	仕入帳、売上帳		
	12	売買損益	売掛金元帳、買掛金元帳		
	13	売買損益	商品有高帳		
	14	決算手続き（試算表）	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表		
	15	その他の債権債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金		
	16	その他の債権債務	仮払金・仮受金、立替金・預り金、現金過不足		

	17	その他の債権債務	現金過不足、売上原価対立法、消費税の処理
	18	有価証券 / 株式の発行	有価証券の売買、株式発行
	19	決算手続き（決算整理）	精算表の作成（決算整理なし）、固定資産の購入と減価償却
	20	決算手続き（決算整理）	貸倒れの見積りと貸倒れ処理、売上原価の計算、消耗品の処理、費用の繰延・見越
	21	決算手続き（決算整理） / 精算表	決算整理事項の仕訳演習、精算表の作成
	22	精算表	精算表の作成
	23	精算表	精算表の作成
	24	財務諸表	貸借対照表・損益計算書の作成
	25	検定試験対策	分野別仕訳演習、計算問題
	26	検定試験対策	分野別仕訳演習、計算問題
	27	検定試験対策	過去問題演習
	28	検定試験対策	過去問題演習
	29	検定試験対策	過去問題演習
	30	検定試験対策	過去問題演習
	31	検定試験対策	過去問題演習
	32	検定試験対策	過去問題演習
	33	検定試験対策	過去問題演習
	34	検定試験対策	模擬試験
	35	検定試験対策	模擬試験
	36	検定試験対策	模擬試験
	37	検定試験対策	模擬試験
	38	検定試験対策	模擬試験

授業科目	簿記	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	判断知能 B	担当教員	小形 龍志		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各單元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的とする。				
到達目標	各単元の基本解法を習得し、テキストの例題・演習問題を確実に解けるようにする。模擬試験における判断知能分野正答率 70%以上を目標とする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォン（電源を切る、または、マナーモードにする）の操作などを行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。 3. 単元毎の導入動画を授業前日までに必ず視聴し、それを理解した上で授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	道順・位相 1	最短経路の求め方について理解する。		
	2	道順・位相 2	一筆書きの問題を解く方法について理解する		
	3	手順 1	天秤量りを使って判断する方法を理解する。		
	4	手順 2	ニセ金、帽子の色の判断、油分け算の図の描き方について理解する。		
	5	手順 3	定員ありの移動、必勝法の問題について理解する。		
	6	手順 4	作業工程、通過算の問題について理解する。		
	7	手順 5	並び替え、対戦推移の問題について理解する。		
	8	空間図形の分割 1	図形を着色、串刺しした場合について理解する。		
	9	空間図形の分割 2	図形を切断した場合について理解する。		
	10	空間図形の分割 3	問題演習		
	11	暗号 1	5 0 音対応について理解する。		
	12	暗号 2	アルファベット対応について理解する。		

	13	多面体・切断・回転 1	各正多面体の特徴、切断した場合の切断面について理解する。
	14	多面体・切断・回転 2	回転体について理解する。
	15	暦・カレンダー1	暦・カレンダーのルール、閏年について理解する。
	16	暦・カレンダー2	「おき」「ごと」について理解する。
	17	空間図形の投影 1	投影図の見方について理解する。
	18	空間図形の投影 2	積み木の問題の解き方について理解する。
	19	実戦演習 1	問題演習
	20	実戦演習 2	問題演習
	21	実戦演習 3	問題演習
	22	実戦演習 4	問題演習
	23	実戦演習 5	問題演習
	24	実戦演習 6	問題演習
	25	実戦演習 7	問題演習
	26	実戦演習 8	問題演習
	27	実戦演習 9	問題演習
	28	実戦演習 10	問題演習
	29	実戦演習 11	問題演習
	30	実戦演習 12	問題演習

授業科目	判断知能 B	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	電卓	担当教員	中畑 賢一		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	0 時間
授業目的	電卓機能の知識と計算技能の向上を目的とします。				
到達目標	全国経理教育協会主催電卓計算能力検定 3 級以上合格。				
テキスト・参考図書等	電卓計算能力検定試験 過去問題集（各受験級）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	試験、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。 ※試験は、電卓計算能力検定とする。ただし、採点方法は本校基準による。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	検定試験に対応した電卓を購入する必要があります、電卓必要機能（12 桁電卓、GT 機能付き、メモリー機能付き、四捨五入・切り捨て、端数処理ポインター0、2、3、4）				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	電卓機能の基本動作	見取算、複合算の技能確認と端数処理、メモリー機能確認		
	2	電卓機能の基本動作	乗算、除算の技能確認と端数処理、GT・メモリー機能確認		
	3	電卓機能の基本動作	乗算・除算・見取算・複合算の復習		
	4	電卓機能の基本動作	伝票算の計算方法、見取算、複合算、乗算、除算の復習		
	5	電卓検定過去問演習	乗算・除算・見取算・複合算・伝票算の計測演習		
	6	電卓検定過去問演習	乗算・除算・見取算・複合算・伝票算の計測演習		
	7	電卓検定過去問演習	乗算・除算・見取算・複合算・伝票算の計測演習		
	8	電卓検定過去問演習	乗算・除算・見取算・複合算・伝票算の計測演習		
	9	電卓検定過去問演習	乗算・除算・見取算・複合算・伝票算の計測演習		
	10	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		
	11	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		
	12	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		
	13	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		
	14	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		
	15	小テスト	模擬試験（5 種目）、他人の解答を採点		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	Word	担当教員	小野寺 海都		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	0 時間
授業目的	Word 機能を理解し、効率の良い活用と、入力作業の速度アップ、一般的なビジネス文書作成の技能を習得する。				
到達目標	1. Word の基本的な機能を習得する。 2. ビジネス文書力を身につける。 3. 日本情報処理検定協会主催 日本語ワープロ検定 3 級以上の合格。				
テキスト・参考図書等	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定試験 日本語ワープロ模擬問題集 2・準 2 級編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	試験、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に判断します。 ※試験は日本語ワープロ検定とする。ただし、本校の採点基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	目標級の内容に限定せず、上級試験の内容も一部取り入れて展開します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎知識習得	Word 機能に関する基本操作		
	2	基礎知識習得	Word 機能に関する基本操作、基本操作に関する小テスト		
	3	基本導入	速度入力問題、文書作成の基礎（準 2 級）		
	4	基本導入	速度入力問題、文書作成の基礎（準 2 級）		
	5	基本導入	速度入力問題、文書作成の基礎（準 2 級）		
	6	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（2 級）		
	7	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（2 級）		
	8	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（2 級）		
	9	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（各受験予定級）		
	10	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（各受験予定級）		
	11	問題演習	速度入力問題、文書作成問題（各受験予定級）小テスト（速度入力、文書作成）		
	12	検定対策	日本語ワープロ検定試験 過去問題（各受験級）①		
	13	検定対策	日本語ワープロ検定試験 過去問題（各受験級）②		
	14	検定対策	日本語ワープロ検定試験 過去問題（各受験級）③		
	15	検定対策	日本語ワープロ検定試験 過去問題（各受験級）④		

授業科目	Word	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	日本史 A	担当教員	小林 功典		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	各時代の歴史的事実とその因果関係を正確に理解し、生きた知識としてしっかりと身につけさせ、合わせて現代社会を理解するための指針とすることを目的とする。				
到達目標	授業目的に基づき、講義と問題演習をスピーディーに実施することにより、短期間で本試験に合格できる学力を身につけさせることを目的とする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義が速いペースで進むので、予習と復習を忘れないで下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	古代 1.2	講義と問題演習		
	2	古代 3.4	講義と問題演習		
	3	古代 5.6	講義と問題演習		
	4	中世 1.2	講義と問題演習		
	5	中世 3.4	講義と問題演習		
	6	近世 1.2	講義と問題演習		
	7	近世 3.4	講義と問題演習		
	8	近世 5.6	講義と問題演習		
	9	近世 7 近代 1	講義と問題演習		
	10	近代 2.3	講義と問題演習		
	11	近代 4.5	講義と問題演習		
	12	近代 6.7	講義と問題演習		
	13	現代 1.2	講義と問題演習		
	14	文化史 1.2.3.	講義と問題演習		
	15	文化史 4.5.6	講義と問題演習		

授業科目	日本史 A	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	2 次試験対策 B		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	面接試験に必要な、基本動作（入退室、言葉遣い、表情、挨拶 等）及び、自己 PR、志望動機 等の実践に則した対応準備、練習を行います。				
到達目標	1. 基本的質問事項（志望動機、自己 PR）の完成 2. 模擬面接のレベルアップ 3. 試験形態に則した対応スタイルの構築（集団討論 等）				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（面接評価等）、提出物、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	20			
	その他	40			
履修上の留意事項	1. 他者の言動（意見や考え方、行動）を参考に、常に自分自身が行っている対策や準備の、見直しと改善の意識をもって取り組んでください 2. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組み、作成提出してください				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	志望動機	第一志望の職種研究、志望動機作成		
	2	志望動機	第一志望の志望動機作成、提出		
	3	志望動機	第一志望の志望動機の修正、提出		
	4	模擬演習	集団討論（グループディスカッション）指導 対策と模擬討論		
	5	模擬演習	集団討論（グループディスカッション）実践、評価		
	6	模擬演習	個人面接指導（基本動作、志望動機、自己 PR）		
	7	模擬演習	個人面接指導（志望動機、自己 PR） 面接カード作成、提出		
	8	模擬演習	個人面接指導（志望動機、自己 PR） 面接カード作成、提出		
	9	模擬演習	個人面接指導（志望動機、自己 PR） 面接カード作成、指導		
	10	模擬演習	個人面接指導（グループ単位で学生による模擬面接）		
	11	模擬演習	個人面接指導（グループ単位で学生による模擬面接）		
	12	模擬演習	集団面接指導		
	13	模擬演習	個別面接指導（総合）		
	14	模擬演習	個人面接指導（総合）		
15	模擬演習	個人面接指導（総合）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	模擬演習 C		担当教員	小形 龍志	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	「模擬演習 C」は、公務員学科（1 年制）の学生が、2 年制へ転科する場合の選択科目です。 次年度公務員受験に向け、一般知能分野の演習と模擬試験を中心に行い、1 年制の前期科目の復習が目的です。				
到達目標	1. 一般知能分野（数的知能、判断知能）の復習を通して、本試験得点源の基礎を固めます。 2. 模擬試験正答率 50% 以上。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（模擬試験等）、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	2 月から集中（3 週間）で行う授業です。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	単元復習	判断知能演習①		
	2	単元復習	数的知能演習①		
	3	単元復習	判断知能演習②		
	4	単元復習	数的知能演習②		
	5	模擬試験	模擬試験①		
	6	模擬試験	模擬試験①		
	7	単元復習	判断知能演習③		
	8	単元復習	数的知能演習③		
	9	単元復習	判断知能演習④		
	10	単元復習	数的知能演習④		
	11	模擬試験	模擬試験②		
	12	模擬試験	模擬試験②		
	13	単元復習	判断知能演習⑤		
	14	単元復習	数的知能演習⑤		
	15	単元復習	判断知能、数的知能 総確認		

授業科目	模擬演習 C	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	1 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	国語・文章理解 A	担当教員	柿森 拓郎		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	
授業目的	文章理解は出題数が多く、筆記試験において得点源にできるかどうかが重要になる。この授業では、国語（漢字含む）、及び文章理解を中心に、国語の総合力を身につける。				
到達目標	模擬試験正答率を「国語」、「文章理解」合わせて、60%以上を目指す。				
テキスト・参考図書等	”絶対”合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解 公務員試験 地方初級・国家一般職問題集 国語・文章理解				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	評価試験（評価小テスト）、小テスト、その他（出席率、授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	授業ガイダンス 1	公務員試験用の自己紹介をする。公務員試験における文章理解の意味を知る。		
	2	授業ガイダンス 2	テキストやノートの使い方を知る。1 文を正しく理解する		
	3	文章理解 内容把握 1 TAC テキスト①同音異義語	文章理解（内容把握）接続のことばに注目する。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	4	文章理解 内容把握 2 1 文の読み方 同音異義語②	文章理解（内容把握）強調表現に注目する。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	5	文章理解 1 文と 1 文の関係を理解する 同音異義語③	作文クイックマスター（海保、道警用）5 月の試験のために書き方のルールをマスターする。		
	6	文章理解 1 文と 1 文の関係を理解する 漢字の読み①	文章理解（内容把握）条件を表す表現を見つける。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	7	文章理解 文全体の構造 漢字の読み②	文章理解（内容把握）副詞の働きを知る。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	8	文章理解 文全体の構造 漢字の読み③	文章理解（内容把握）指示語の働きを知る。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	9	文章理解 内容一致演習① 漢字の読み④	文章理解（内容把握）例示の表現への対処方法を知る。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	10	文章理解 内容一致演習② 重要語彙①	文章理解（内容把握）定義づけに線を引く。漢字エクササイズ。四字熟語。		
	11	文章理解 内容一致演習③ 重要語彙②	文章理解（内容把握）問題提起型の論の進め方を知る。漢字エクササイズ小テスト。四字熟語。		
	12	文章理解 文章整序演習① 重要語彙③	文章理解（内容把握）まとめの表現を見つける。漢字エクササイズ。四字熟語。		

	13	文章理解 文章整序演習② 重要語彙④	文章理解（内容把握） 「のだ」「のである」の役割を知る。漢字エクササイズ。四字熟語。
	14	文章理解 文章整序演習③ 重要語彙⑤	文章理解（内容把握） 「いわば」を見つけたらラッキーである。漢字エクササイズ。四字熟語。
	15	文章理解 主旨把握演習① 四字熟語①	文章理解（空欄補充） 「このように」「こうして」は重要である。漢字エクササイズ。四字熟語。
	16	文章理解 主旨把握演習② 四字熟語②	文章理解（空欄補充） 同義語に注目する。漢字エクササイズ。故事ことわざ。
	17	文章理解 空欄補充① 四字熟語③	文章理解（空欄補充） 空欄を後ろから指す指示語の扱いを知る。漢字エクササイズ。故事ことわざ。
	18	文章理解 空欄補充② 対義語①	文章理解（空欄補充） 筆者名、題名もヒントになる。漢字エクササイズ。故事ことわざ。
	19	文章理解 問題演習① 対義語②	文章理解（整序） 整序はパズルである。漢字エクササイズ小テスト。故事ことわざ。
	20	文章理解 問題演習② 類義語①	文章理解（整序） しりとり原則とは何か。故事ことわざ。
	21	文章理解 問題演習③ 類義語②	文章理解（整序） 内容は後まわしにして考える。故事ことわざ。
	22	文章理解 問題演習④ SPI 国文法格助詞	文章理解（整序） グループ分け方法を知る。漢字エクササイズ。故事ことわざ。
	23	文章理解 問題演習⑤ SPI 国文法②取り立て助詞	文章理解（整序） 指示語を手掛かりにする。故事ことわざ。
	24	総合演習 1 問題演習⑥ SPI 国文法③その他の助詞	問題演習（麻生）。故事ことわざ。
	25	総合演習 2 問題演習⑦ SPI 国文法④熟語の構成	問題演習（麻生）。故事ことわざ。
	26	総合演習 3 問題演習⑧ 同音異義語復習	問題演習（麻生）。故事ことわざ。
	27	総合演習 4 問題演習⑨ 漢字の読み復習	問題演習（麻生）。故事ことわざ。
	28	過去問演習 1 問題演習⑩ 四字熟語復習	時間を意識して過去問チェックをする。
	29	過去問演習 2 問題演習⑪ 重要語彙復習	時間を意識して過去問チェックをする。
	30	過去問演習 3 問題演習⑫ 対義語・類義語復習	時間を意識して過去問チェックをする。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

